

# 「めだかの学校」が先導する田園地域における水環境改善への取組 K-8

元泉地域農地・水・環境保全組織

奥山仁六

## 1、目的

最上川は、上流の米沢盆地、中流の山形盆地、下流の庄内平野と何れも本県屈指の穀倉地帯であり、古くから農業が盛んでありその中心は稲作である。したがって、最上川の水環境改善は、本県農業の持続的発展のためにも避けられない課題である。

そこで、本組織（全戸数 126 戸、水田面積 95ha、畑 7 ha 用排水路 24 km）では、田園地における自然環境改善のための地域教育基幹施設として地域の子ども（小 1～6 年生）達を対象にした「めだかの学校」（平成 20 年町内唯一の在来野生めだかを譲り受け、放流した水田）を開校し、「子ども達が水環境改善のための橋渡し役」としての取組効果について明らかにする。

## 2、活動目標

元泉流「いい田園の定義」（平成 20 年 6 月策定）に基づく田園自然環境改善

第 1、田園を支える「元気な農家」がいること。

第 2、田園の「自然環境が豊か」であること。

第 3、田園を遊びとする「はじける元気な子ども」がいること。

第 4、田園の夢を語る「笑顔が似合う地区民」がいること。

第 5、田園の動脈（命）である「水路・農道等の保全管理」が良いこと。

第 6、これらの取組を、継続的に先導する「活動組織」を有すること。

## 3、実施方法

### （1）地域の子ども達への田園自然環境教育基幹施設「めだかの学校」の開校

平成 20 年 6 月、河北町唯一の野生在来めだかを譲り受け、水田 8a を地元農家から無償で借受けた水田に放流開設した「めだかの学校」（本校舎）の開校



### （2）「めだかの学校」の運営は、全て地域の人達で

校長は、地域一の大規模農家が、教頭は畑中尚義会長（110 年の歴史にある地区若衆組織）、教務主任は子ども育成会長、PTA 会長は、元泉地域農地・水・環境保全組織会長（畑中区長）、PTA は、地域全ての活動組織（子供会、老人クラブ、婦人会、自警消防団、農事実行組合、民生児童員等）

### （3）「めだかの学校児童」への「いきいき農業体験とピカピカ観察」会等の開催

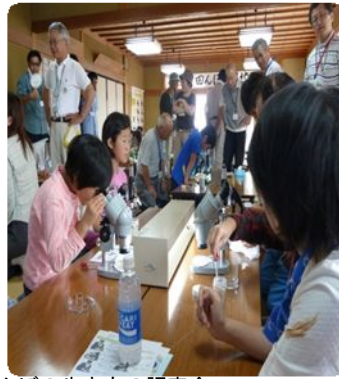
ア、いきいき農業体験： ①田植（4 月）、②手取り除草（6 月）、③稲刈り（9 月）

イ、ピカピカ観察会： ①田んぼの夜の音調べ（4/下・カエル等）、②「つや姫」栽培田へのめだかの放流会（6 月）、③田んぼの生きもの調査会（7 月）、④カメムシ発見隊活

(8月) ⑤田んぼの「見どころ・見せどころ・聞きどころ」写真コンクール (11月)



「つや姫」水田へのめだか放流会



田んぼの生きもの調査会



田んぼの見どころ・見せどころ・聞きどころ写真コンクール

フル

(4) 用排水路の水質モニタリングの実施 (めだかの学校児童父兄)

- ア、実施年度 : 平成19年から継続実施
- イ、調査項目 : ①PH、②EC、③COD、④BOD、⑤T-N、⑥T-P
- ウ、検査委託先 : 厚生労働大臣登録検査機関 (山形市)
- エ、検体採水組織 : 畑中尚義会 (地域の若衆組織)

4、実施結果

(1) 生きもの調査結果

ア、1年で「マルタニシ」「ドジョウ」「トンボ」が急増した「めだかの学校本校舎田」  
(平成19年度からも無農薬・無肥料栽培水田)

○平成26年度の調査から確認した絶目危惧種 (本校舎水田・7年間無農薬・無肥料田)

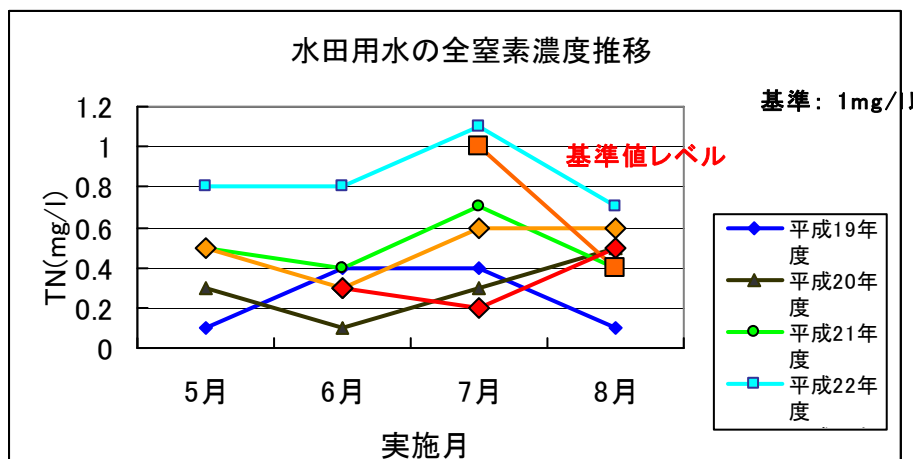
- ①イトトリゲモ (準絶滅種)
- ②マルタニシ (Ⅱ)、
- ③トノサマガエル (Ⅱ)
- ④ゲンゴロウ (Ⅱ)



イ、殖えない用排水路の生きもの

(2) 用排水路の水質モニタリング結果

- ア、8年間の検査値が安定しているPH、EH、COD、BOD、T-P濃度
- イ、年度で異なるT-N濃度



### (3) 「めだかの学校」元泉分校を、町内小学校等へ開校

平成 25 年度までに、3 小学校と 1 こども園に分校開校。 今年度中全小学校へ開校予定。

～～現在は3校舎5分校体制です。～～



- ①平成 21 年 6 月、河北町立谷地中部小学校へ分校第 1 号開校
  - ②平成 24 年 9 月 秋冬分校（東校舎の落水時）
  - ③平成 25 年 6 月 河北町立谷地西部小学校へ第 2 号の分校開校
  - ④同年 6 月、河北町立谷地南部小学校へ第 3 号の分校と河北あいこども園に開校
- ※平成 26 年度中には、残り 3 小学校への分校を開校。これで、河北町立の全小学校に「めだかの学校の分校」の開校完了予定。

### (4) めだかが棲める「生態系と景観に配慮した水路の直営施工



事業年度 : 平成 23～24 年度  
 事業名 : 官民連携新技術研究  
 開発事業  
 事業規: 2 水路 L=110m  
 施工場所: めだかの学校西校舎  
 周りの水路

### (5) 全国唯一の水田内観察専用木道の考案・設置

ア、考案者: めだかの学校長 (地域の担い手農家)

めだかの学校児童の強い要望で、校長自ら考案、施工

イ、設置場所: めだかの学校の 3 校舎 (本・東・西校舎)

～～夏季休暇中は、元泉地区田んぼの銀座通りに～～

### (6) 町一の実績「環境保全型農業の推進」



### (6) 元泉流「美田伝承システム」で地域資源の管理

ア、GIS を活用した「地域資源管理」として

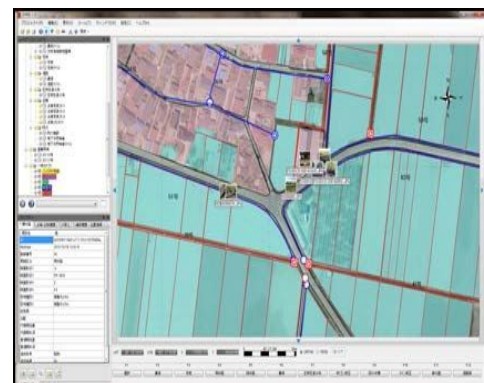
平成 24 年度から活用

イ、活用メニュー ①用排水路の補修暦等

②農地の利用履歴、③環境保全型農業履歴

④年度別田んぼの生きもの調査結果

⑤年度別水質モニタリング結果履歴



⑥田園の景観・農村文化履歴等

(7) 町一実績の「環境保全型農業の推進」

- ア、冬季湛水、イ、100%有機大豆栽培
- ウ、麦のリビングマルチ大豆栽培 →



(8) 新しい「農と医」との連携取組への挑戦

- ア、めだかの学校本校舎で7年間無農薬・無肥料で地区の子供達が生産しためだか新米を10月20日(月)、県立河北病院へ30kg寄贈。
- イ、医療との新しい関係を構築中



(9) 元泉地域への田園環境支援組織「おやきまき会」との定期交流会

- ア、「おやきまき」とは「親戚の事」
- イ、町内の家族100組を限度に年1家族1000円の会費で募集
- ウ、農業体験、いきもの調査、写真コンクール参加、手前味噌作り(婦人)
- エ、総合防災訓練への参加(自主防災会)



～手前味噌作り講習会：毎年2月上旬開催～

## 5、考 察

田園育ちの子ども達は、町場の子供達より田園の生きものや景観等自然への関心が極めて低い実態を憂い、そのための試行として急ぎ開校した「めだかの学校」が、この小さな取組によって、田んぼの力と魅力を学び、「ふるさと大好きな子ども」を育み、田園における水環境向上取組への必須要件とする「持続性」と「広域性」が備わった。

その結果、子ども達と農家と地域民との総がかりによる、しかも、「普段の活動」として田園地の環境向上活動が定着した。

これまでの田園地域の環境改善取組は、とかく専門家依存による一時的な取組事例が多い中で、地域の「子ども達が水環境改善のための橋渡し役」として、想定以上の大きな成果に結びついた事例を紹介し、今後、避けて通れない田園自然の環境改善に係る地域からの知見とする。

## 6、まとめ

田園の水環境を含めた田園自然の環境向上を図るには、「金がないから、難しくて、行政が何もしてくれない」と言い続けても、田園環境の改善どころか悪化するだけで一歩も前進しない。そこで、水環境改善には、「地域の目線で、地域民による、地域民のための、継続的な取組。」と「地域を思う地域民の力」こそが、この課題解決への原点である事を継承しつつ、更に田園の多面的機能の進化・発展を図り、元泉流の「桃源郷」づくりへ繋げたい。